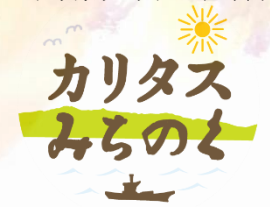


A heart of solidarity in Michinoku

こころなないろ

～カリタスみちのく便り～



2021年春、東日本大震災と福島第一原発事故から10年を機に、東日本で活動をしている仲間たちを中心に、「みちのく」で出会った人たちとこれからもつながっていこう、と、有志によるネットワーク「カリタスみちのく」が立ち上がりました。こちらのニュースレター「こころなないろ」は、9月と3月に発行予定です。創刊号の今号では、「カリタスみちのく」世話人会代表・菅原圭一からのごあいさつ、5月と7月に開催した「カリタスみちのくの集い」の報告、カリタスみちのくに参加している仲間たちの現況、カリタスベースで活動をされたボランティアさんからのメッセージをご紹介します。

まだまだ始まったばかりの、ゆるやかなネットワークですが、これからもどんどん「カリタスみちのく」の輪が広がっていきますように！

みちのくから絆を広げよう！

カリタスみちのく世話人会 代表 菅原 圭一(カリタス大船渡ベース ベース長)

東日本大震災からもう10年と半年が経過しました。多くの方々が犠牲となりました。亡くなられた方々に永遠の安息が与えられるようにと日々祈り続けています。発災後、日本のカトリック教会はオールジャパンの体制で被災地に9つのベース（ボランティアの拠点）を作り、支援の活動を始めました。全国から全世界からボランティアが続々と集まり、被災地の復旧復興に汗を流し、被災者に寄り添って勇気づけてくださいました。その活動は素晴らしいものでした。人と人が交流し、ベースとベースが力を合わせ、その活動の中で「絆」を深めていきました。そして10年の節目を迎えました。この「絆」を10年で終結させるのではなく、これからも継続させていきたい、広げていきたい、深めていきたいとの思いから「カリタスみちのく」を立ち上げました。活動を継続するベース、支援を続ける各種団体・教会・グループ・個人の方々の、情報共有・情報発信の場としていきたいと思います。さまざまなさらなる連携が生まれることを心から期待しています。

カリタスみちのくの集い 開催

2021年3月まで、定期的カリタスベースのベース長たちが集い「全ベース会議」を開いていましたが、「カリタスみちのくの集い」は参加者をカリタスベースに限らず、小教区やさまざまなグループなど、幅広く集い、情報交換ができる場を目指します。

5月28日、第1回をオンラインで行いました。カリタスみやこ、カリタス釜石、カリタス大船渡ベース、カリタス南三陸、カリタス石巻ベース、カリタス南相馬、カリタスいわき（仮）、カリタスジャパン、東京教区本部事務局、カトリック新聞から15人の出席でした。各グループの近況報告に続き、司教協議会で進めていた東日本大震災被災地での活動の評価についての進捗状況が伝えられました。また、カリタスみちのく世話人会から、今後の活動予定について皆さんにお伝えしました。

第2回は7月31日に開催。カリタスベースに加え、新潟教区の信徒の方も参加されました。これまでの支援活動についての紹介と、コロナ禍での現状を分かち合いました。参加者からは、「コロナという、これまで我々が経験したことのない難しい状況の中ではありますが、知恵を出し合いながら歩んでいければと思います」と感想が寄せられました。

「カリタスみちのくの集い」は今後、原則的に奇数月の最終土曜日に開催予定です。オブザーバーとしての参加も可能です。皆様のご参加をお待ちしています。



カリタスみちのくの輪

仲間たちの『今』をお伝えします

カリタスみやこ 岩手・宮古市

仙台サポートセンターが閉ざされた後の、各ベースや各地区とのつながりを「カリタスみちのく」が引き受けてくださることになり、嬉しく思います。

各地区の情報を、Zoom 配信でつづきに見聞きできる機会は、このコロナ禍以前には考えられなかったことでした。

震災直後の札幌カリタスの俊敏な活動や、日本各地からの支援の手に感謝しながら、当初の被災者にとって、今、何が必要かを探りながらの広範囲の支援活動から、場所を限定し特定の方々への支援活動への移行も、先立つ方々がいて、そ

れについていだけだった私たちでした。対象が限定されることへの反対意見もありましたが、「自分たちが出来ることを」という形を続けています。

私たちの活動が、いかに小さく、力の弱いものかを思い知らされますが、各ベースの皆さんそれぞれが出来ることを実行していることに、いつも敬意を持って拝見しています。

今後、自分たちには何ができるかを、模索しながら進んで行きたいと思います。

(伊藤 純子)



カリタスみやこは、札幌カリタスの被災者支援の活動を宮古教会が引き継ぐ形で立ち上げられた。現在は被災者に限定せず、地域住民を対象に月1度のカフェを細々と行っている。それも新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2時間という短時間での開催だが、それでも来られる方は楽しみにしているようで、終始和やかに過ごされている。(残念ながら8月は、市内での感染確認や岩手県独自の緊急事態宣言が出されたこともあり、中止とした)。人員の少ない共同体にはできることに限りがあるが、コロナ終息後には時間も回数も増やし、また復興住宅でのカフェなど、少しでも活動の幅を広げることができたらと考えている。

東日本大震災から10年、仙台教区サポートセンターの活動は終了し、「カリタスみちのく」という新たなつながりの場ができた。自然災害は毎年あちこちで起きていて、他人事ではない。これまでの絆、そしてこれからの絆を大切に、支援する側、される側にこだわらず、共に歩めたらと思っている。

(佐々木 裕)

カリタス釜石 岩手・釜石市

今年度よりカリタス釜石は、新たに福島からシスター2人を迎え、新しい体制でフリースペース「ふいりあ」を運営しています。

普段のふいりあは常に誰かと誰かが楽しく話している、そんな雰囲気です。今年度の現在までの主なイベント事ですが、まずは5月5日のこどもの日。この日は皆さんで柏餅を食べて過ごしました。朝から多くの方が来られ、楽しく会話をしながら子どもたちの思い出話で盛り上がりしました。そして7月7日



の七夕、少し前から常連の皆さんを中心に飾りを作っていき、全国のボランティアの方からも短冊を送っていただきました。屋内に竹を設置し、今年もとてもきれいに飾り付けることができました。この七夕飾りは、せっくなのでしばらく残して皆さんで季節を楽しむことができました。

現在、岩手県は緊急事態宣言が出されており、ふいりあも感染防止のため休業していますが、また皆さんで楽しくお茶っできる日を楽しみに待っています。

(ベース長 道又 譲)

カリタス大船渡ベース 岩手・大船渡市

カリタス大船渡ベースは震災の翌年、2012年1月14日に大船渡町地ノ森に開所しました。当初は関西の方々がスタッフとなり、2,000名を超えるボランティアさんが登録して、繰り返しボランティア活動に来てくださり、被災地の方々に寄り添ってくださいました。震災から10年。活動は力仕事から被災した方々に寄り添う訪問活動やサロン活動に変わり、スタッフも現在は5人で、全員が地元出身者となりました。残念なことに、コロナ禍が拡大し、昨年3月からボランティアさんの受入れを中止し、スタッフだけで行なえる範囲の活動を行なっています。訪問活動は原則、玄関先での訪問としていますが、訪問先の方々は訪問を待ちわびてくださり、「また来てね」と手を振ってくださいます。災害公営住宅の集会室への訪問も今は1か所だけとなっていますが、訪問する日を楽しみに待っていてくださいます。訪問のほかに、買物送迎や手芸サロン、体操教室、英語学習会、絵手紙の輪、スマホ教室などを開催しています。コロナ禍が収束したら、是非いらしてください。

(ベース長 菅原 圭一)



一般社団法人カリタス南三陸 宮城・登米市

「災害が起きると当たり前の日々への感謝を忘れていることに気付かされるんだよね」パンデミックで世界中が日常生活を奪われた時、南三陸の方から聞こえてきた印象的な言葉でした。今、自分はどうか？ 家族がいてくれること、友達と他愛のない話ができること、仕事を一緒にする仲間がいてくれること、お互いの存在に感謝できているだろうか？ 暗いニュースがはびこる中、身近にいる人が少しでも喜んでくれることに目を向けると、自分たちにも出来るのが何かあるのではないかと改めて教えられたような気がしています。地震や津波が来て、原発が爆発しても、台風が来ても、ウィルスが広がっても、10年間、変わらず季節は巡り、子どもたちは成長し、種は芽を出し花を咲かせ実を結び、自然の中で命をいただくことへの感謝を漁師さんや農家の方たちから学んできました。これからも当たり前の日々感謝を忘れずに、小さな喜びを積み重ねて暮らしていくことができますように。

(代表 千葉 道生)



カリタス石巻ベース 宮城・石巻市

6月から久しぶりに毎週水曜日、オープンスペースを開くようになりました。3月に以前勤めていたスタッフが退職したので、私たちはあまりやり方を分からないながら頑張って開きました。コロナウィルスの感染が広がっているため、8月18日からまたお休みしています。

前からカリタスを借りて活動していたグループは、スケジュールは変わることは多いですが活動を続けています。新しいグループの利用、新しい活動も始まりました。東北ヘルプ（仙台キリスト教連合による被災地支援活動）は週に一回から二回、パン作りの活動を始めました。ひきこもっている人たちが、経験を持っている先生と一緒にパンを作りながらお話しできます。

毎週日曜日の午後、NP0心の港が日本語教室を開いています。参加しているのはほとんどがベトナム人です。皆さん正しい日本語を話したいので熱心に勉強しています。

これからもまたコロナの中で頑張りましょう！

(心の港 ミュレル・シルヴィー)



オリーブの会 宮城・亶理町

オリーブの会は2021年8月からコロナ感染対策でまたお休みしています。皆で再開できるよう祈りながら再開準備をしています。

オリーブの会は2012年3月宮城県亶理町の旧館仮設住宅に津波被災者を訪ねた時に始まりました。きっかけは八木山教会の信徒、桜井たか子さんの同級生が4人、仮設住宅にいるのが分かったからです。ほかのボランティアが仮設巡りをツアーのように行っているとき、私たちは同じ仮設の同じメンバーのところに通い続けました。

春の花見や秋の芋煮会、冬のクリスマス会、お正月の花活け、落語会とイベントを続け、一年もたつと皆がすっかり顔なじみになりました。さまざまな話をするようになり、傾聴が絆になってゆきました。



9年半の寄り添いの間には、参加者が病気になったり、天に召されたりしました。病気の見舞いやお香典を出したり、亡くなった人たちの写真を飾り共に祈りをささげるようになりました。

親しくなると、手作りの漬物や料理が差し入れられたり、リーダーを通して「オリーブの会を続けてほしい」と本音をぶつけられるようになりました。

仮設住宅が閉鎖され集会所が使用禁止になると、皆さんは残った集会所に自宅から通ってくるようになりました。すべての集会所が閉ざされると、亶理教会が会場を提供してくれました。亶理教会に集会所機能がなかったため、仙台教区がリフォームを助けてくれました。

手作りの料理が教会で調理できると、食前の祈りが定着しました。参加者が帰った後にミーティングやミサをすることもできました。これまで多くの祈りと恵み、導きがあったと信じています。

コロナ対策を取り、工夫しながら、再開後のスケジュールは来年8月まで作ってあります。

(八木山教会 野田 和雄)

一般社団法人カリタス南相馬 福島・南相馬市

カリタス南相馬では、新型コロナウイルスの感染拡大によって県外からのボランティアの受け入れは現在も中止となっていますが、スタッフとシスター、県内在住のボランティアの方とでできる活動を行っています。災害公営団地や復興団地への戸別訪問、幼稚園の預かり保育補助、障がい者施設での作業補助、障害者の見守り活動、サロン活動のお手伝い、高齢世帯のお宅の除草作業や片付けなど、必要とされた活動であるため、感染対策を行った上で継続しています。また、このコロナ禍で生活が困窮された方への物資支援も行っています。地元農家さんの支援も兼ねてお米を購入し、ひとり親家庭や外国人技能実習生へお米支援を行い、現在は、生活が厳しい子育て世代の方へのお米支援を継続しています。

お米支援に皆さん「助かります」と喜んでくださいましたが、私たちはお一人お一人とつながりが持てたことにそれ以上の喜びを感じています。コロナ禍で人と人とのつながりが希薄になっている今だからこそ、今後もつながりを大切に活動が続けていきたいと思います。

(所長 南原 摩利)

**松木町教会「愛の支援グループ」 福島・福島市**

コロナ禍で会えないからこそ…。

1.あのと看、このときの思ひが今に。

10年前、福島市あづま総合体育館避難所に支援物資を届け、炊き出し手伝いをしていた時のこと。

炊き出し配布のトレーに代わる浅型段ボール箱を抱えてうつむきながら並んでいた姿。あたり前でなくなった人生の1ページを肌で感じたような気がした。それから数日経ってから、ヒンヤリとした口ビに野の茶花を飾り、温かな抹茶とかわいい菓子でもてなしの傾聴へ。ほっこりと笑顔になりポツリポツリと話し始められた。光がさしたようだった。あの光景は忘れられない。

その後、ちょうど10年前の9月。福島市宮代仮設に入居されていた浪江町の方々との出会いとなった。仮設には、同じ町民ではあるが互いに見知らぬ人。「浪江に必ず戻る！」原発事故のために帰れないかもしれないが、帰りたい！強い思いがあった。住民は互いに励ましあっていた。しかし、原発事故による警戒区域は2013年に避難解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の三区域に分断された。さらに仮設生活が長期化していくうちに心のずれもでき始め、分断のようなものさえ感じられるようになった。

2015年頃には、ふるさとではなく県内に転出されていく人も見え始めた。一部には焦りも生じ、それまでの空気とは違ってきていた。励ましあっていた心を思いだし、何とか心一つにして仲良く笑顔でいてほしかった。そのような思いから、転出された方々も宮代仮設の集まりに来やすいように、呼びかけを「コスモス宮代の皆さ〜ん。」と。コスモスの花は浪江町花でもあることから。

2016年のクリスマス会には、「コスモス宮代のうた」(「高校三年生」の替えうた)をデビュー。このうたの合唱は、集いの恒例となった。このようにして、泣いたり笑ったりして大家族のようになっていったような気がしている。

♪コスモス宮代のうた (高校三年生の替えうた)

1 赤い夕陽が 仮設をそめて 桜の木陰に 弾(はず)む声
あゝコスモス宮代 みんな 離れ離れに なろうとも
宮代仲間は いつまでも

2.離れていても。

仮設閉鎖後、2018年からは、年に2〜3回の集いを。しかし、今はコロナ禍のため集うことができない。訪問も思うようにできない。2015年に仮設自治会解散に伴って発行を始めた「カリタスからのおたより」が唯一の繋がりである。

当時は、集いの連絡事項が主であったが、コロナ禍になって、「元気運べるたより」を心がけている。ふるさとに戻れないまま県内バラバラになってしまった30戸に、ほぼ毎月送付。コロナ禍の苦しみを乗り越え「すべてに感謝!」、「希望をもって生きてほしい!」の思いを込めて。

この「おたより」によって、離れていても今だから話せること、話したいことが、電話の向こうから伝わってくることもあり、私たちは分かち合っ祈り続けている。コロナが収束し、早く会えますように。



久しぶりの訪問先で、犬と

3.「愛の支援グループ」は、松木町教会規程により12年前設立された。

3・11後、被災者支援活動に携わるようになった。

(代表 鈴木 キミ子)

カリタスいわき 福島・いわき市

はじめに、この記事を書いておられますのは「カリタスいわき(仮称)」と名乗っている「元・さいたま教区サポートセンター」です。

経過をご説明しますと、

①さいたま教区は、2011年いわき市内に「サポートステーションもみの木」というボランティアベースを置き、教区の信徒を中心に「もみの木」と称して、仮設住宅訪問活動を展開してきました。

②その後、仮設住宅が原則2018年3月終了と定められたことから、同年4月にもみの木ベースを閉鎖し、月に20回の仮設住宅訪問活動を終了しました。

③2018年5月からは、さいたま教区信徒が月に一度いわきを訪問し、いわき教会の皆さんと復興公営住宅団地2カ所を「カリタスいわき(仮称)」と称して訪問活動を行ってきました。

④2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症のまん延を受け、活動が休止状態になる中、活動の節目と考えていた2021年3月を迎えました。

⑤さいたま教区では、2021年4月に東日本大震災被災者支援活動のための「教区サポートセンター」を整理し、今後、必要な活動窓口は、教区「カリタスさいたま」が担当することになりました。

以上のような経過をたどり、いわき教会信徒には「カリタスいわき」として、震災、原発に限らず、困難な状況にある方々の支援活動を模索されているようです。

今後のカリタスいわきの活動に期待するとともに、さいたま教区としても大震災、原発災害を忘れないための仕組みを残したいと考えています。

(さいたま教区 朝尾光二)



2021年3月11日、いわき教会でのミサ

さいたま教区のボランティアから1万7千羽を超える折り鶴が寄せられた

ボランティアさんからのおたより

カリタス南三陸（旧・カリタス米川ベース）で活動したお二人のボランティアさんから寄稿いただきました

✖ 南三陸町とテゼコミュニティ

白石 草太

私が初めてカリタス南三陸の米川ベースを訪れたのは、大学1年生の夏休みです。2か月の夏休みの大半を米川で過ごしました。特殊なことではできなくとも、自分のことを求めてくれるところがあるのは嬉しかったです。ボランティアとしてもたらせるものはとてもささやかですが、南三陸町の方々とお話しすることで3.11という日、そしてその日から今に至るまで、少し知ることができた気がします。

米川ベースでの滞在やそこで出会った方々についても思い出深いです。私の滞在中、ヨーロッパから4人の女性がいらしていました。出身の国はそれぞれ違いましたが、みんなフランスのテゼコミュニティから来たと言います。さらには、ベース長の千葉道生さんも以前テゼにおられたそうで、米川ベースにはテゼの風が吹いていました。私は何もわからないまま、一緒に朝と夕の祈りに参加してみました。テゼの祈りは歌と沈黙を主として構成されている気がします。短いフレーズを復唱するテゼソングと沈黙の静けさが、日々のことを落ち着いて考えさせてくれるのです。毎日の活動後の分かち合いも、英語と千葉さんの通訳を交えた2か国語で行われ、有意義な時間でした。私にとって何か居心地のいい魅力がテゼにあるように思われました。その秋、また米川ベースでテゼのブラザーとお会いしました。お互い言葉少なに一日過ごしたのですが、何も語らずとも意思疎通ができている気がしました。やはり、テゼに引かれます。ブラザーから、「来年の夏は草太がテゼに来てごらん」と言われ、意を固く



しました。そうして翌夏、フランスへと飛びました。何とかたどり着いたテゼはのどかな風景の中にありました。どこまでも続くブルゴーニュの丘。その丘の一つがテゼコミュニティです。教会を取り囲むようにキャンプサイトやドミトリーがあり、毎週世界中から集まった数千人の若者が祈りの生活を送ります。テゼはエキュメニカルな共

同体で、カトリックやプロテスタントに限らず、さまざまな信仰を持つ人が訪れていました。母語も信仰も異なる大勢がみんな同じ歌を歌い、一同に沈黙となった瞬間、それは言葉にできないほど尊厳な場に我が身を置いていることを実感しました。私はテゼの心地よい静けさと、場をわきまえたにぎわいにすっかり魅了され、結局どこへも観光へ行かずに3週間滞在しました。世界中から集まる若者たちと不思議なほど波長が合い、別れは惜しいものでした。ともに働き、勉強し、生活を送るなかで、自分の感性と価値観がより育まれた気がします。2年がたち、私は大学4年生です。なかなか出歩けない今現在ですが、落ち着いたらまた米川ベースとテゼを訪れたいです。ご縁に感謝します。



どんな人でも共に歩んでいく

グアダルペ宣教会 メヒア・タデオ・ラファエル神父

初めまして、グアダルペ宣教会のラファエル神父です。来日してもう11年になりました。司祭としてはまだ3年です。最初の派遣先は寒い青森県の「弘前、黒石、五所川原、青森」でした。そして、今年度から宮城県石巻教会に住み、古川、仙台市内の教会の担当司祭として働いています。

皆さんご存知のように現在、コロナの感染拡大の影響で、この世界は混乱、絶望、暗闇に落ちてしまいました。コロナによって全世界の人々の生活が変わり、教会の生活も変わりました。小教区でのお祈り、ミサ、勉強会などが普通に行えません。密にならないようにミサを短縮したり、聖歌を歌わなかった

り、オンライン配信でのミサに参加していただいたり、家からお祈りしていただいたりしています。現在、生活している石巻でもコロナの感染が拡大し、教会では聖体拝領さえ行えません（8月現在）。これは今、仙台教区だけではなく、全世界の教会の姿です。

この状況が始まり、もう一年半が経ちました。多くの人が疲れ、ストレス、不安を感じていると思います。個人的にも疲れを感じています。何とか普通の生活に戻れるように毎日祈っています。

ニュースを見ながら、この状況下に置かれている私たちはどうすれば良いかと考えていたところ、聖パウロのローマ教会への手紙の中にその答えを見つけました。それは、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣く」ということです。「どんな人でも共に歩んでいく」ということです。また、カリタスの米川ベースで学んだことも思い出しました。東日本大震災後、日本全国は大変でした。それでも多くのボランティアの人たちは一つになり、困っている人たちを助け、復興のために一生懸命、そして今もお働き続けています。私はその日本人の連帯の姿を目の当たりにし、外国人として「絆」の意味が分かりました。「絆」というのは、支え合い、助け合い、寄り添うということなのだ。

コロナの影響で私たちの生活や教会の生活が変わっても、神様の助けを願いながら、皆さんと共に歩み、互いに助け合う、寄り添う、支え合うことができれば、このような状況を乗り越えることが出来るでしょう。米川ベースで学んだこと、そして出会った多くのボランティアの人たちに感謝しています。



みちのく掲示板

◆カリタス南相馬より 新型コロナウイルス感染症流行下での緊急支援のお願い

カリタス南相馬では、去年3月以降、コロナ禍における生活困窮者の方々へ物資支援を続けています。コロナ禍における生活困窮者は国内外問わず大変厳しい現状が続いていますが、福島のことを覚えていてくださる皆様に、この度は緊急支援としてお願いさせていただきます。今年のクリスマスおよび新年を、安心して迎えられるよう少しでもお手伝いできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

- ① 地元農家支援のためのお米購入代金（困窮者支援とご記入ください）
振込先 郵便振替口座 口座番号 02230-2-127643
口座名義 一般社団法人カリタス南相馬
ゆうちょ銀行二二九店 当座（0127643）
- ② 常温保存できるカレー、親子丼、中華丼などのレトルト食品
- ③ 味付きで開けたらすぐ食べられる缶詰
- ④ その他、乾麺など常温保存が出来る食品

※物資につきましては、同種が30食以上あると助かります。

お問い合わせ：一般社団法人カリタス南相馬

Tel：0244-26-7718 Fax：0244-26-8007 E-mail：info@caritasms.com

◆カリタスみちのくより 「福音宣教」の取材を受けました

カリタスみちのくの世話人会が座談会形式で「福音宣教」（オリエンズ宗教研究所発行）のインタビューを受けました。10月号（9月中旬発売）に掲載予定です。

カリタスみちのくのニュースレター「こころなないろ」創刊号、いかがでしたか。ご感想をぜひお寄せください。カリタスみちのくでは、メーリングリストとFacebookでの情報発信を行っています。支援活動の情報や、メーリングリストの登録ご希望は cmichinoku@gmail.com までお寄せください。